

## 1 実施概要

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、教育施策の成果と課題とを検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に、平成 19 年度から実施されています。本年度は市内、小学生 735 名、中学生 564 名が参加し、4 月 18 日に調査が行われました。調査内容は、毎年実施されている国語、算数・数学に加えて今年度中学校で英語調査の導入、学習意欲や生活状況等について尋ねる児童生徒質問紙調査となっています。

## 2 学力調査の概要

### 【全般的な概要】

- 小学校については、国語・算数とも高い学力状況ですが、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすることに課題があります。
- 中学校については、国語・数学・英語とも高い学力状況ですが、目的や意図に応じて相手に分かりやすく説明したり、考えを書いたりすることに課題があります。

### 【国語の概要】

- 小学校では、基本的な読み書き、文章を読むことに関しては全国平均・府平均を上回っています。一方で、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題が見られます。
- 中学校では、各領域で、全国平均・府平均を上回っています。中でも、「読む」「言語についての知識・理解・技能」の正答率が高くなっています。一方で、記述式や短答式では正答率が低くなり、無回答率が高くなる傾向があります。

### 【算数・数学の概要】

- 小学校では、全領域、全単元において、平均正答率が、全国・府平均を上回っており、基本的な知識技能は身に付いています。一方で、「数量や図形についての技能」の平均正答率は、全体として全国・府平均より上回っていますが、苦手傾向のある領域となっています。  
また、グラフから資料の特徴や傾向を関連付けながら、四則混合の整数と小数・分数の計算をすることが苦手な傾向にあります。
- 中学校では、数量や図形についての知識・理解が定着しているため、その基礎・基本が数学的な考え方に繋がっており、よい結果として表れていると考えられます。  
また、数学的な技能や数と式の部分については、理解を深めている様子がうかがえますが、関数については苦手な傾向にあります。

### 【英語の概要】（中学校）

- 英語に関する基礎的・基本的な知識・技能については全般的によくできています。
- 受容的な技能（聞くこと、読むこと）について、話されたり書かれたりしている内容そのものを理解することは、概ねできていると考えられます。一方で、その内容から目的・場面・状況に応じて、概要や要点をとらえることに課題があります。
- 発信的な技能（書くこと、話すこと）について、書くことでは、基本的な語や文法事項の知識の定着、それらを活用することに課題があります。また、自分の考えを相手に伝わる英語で表現することに課題が見られます。

### 3 質問紙調査の概要

#### 【生活習慣について】

小・中学校ともに、「毎日、朝食を食べる」「起床・就寝時刻が決まっている」など、基本的な生活習慣が身につけている児童生徒の割合は高い水準を維持しています。規則正しい生活習慣の確立に向け、今後も家庭での習慣づけをお願いいたします。

#### 【学習習慣について】

小・中学校ともに、家庭学習(宿題を含む)によく取り組んでいます。今後も自学自習において自分で計画を立て予習や復習をすることが大切です。

学力の基盤となる読解力の育成とも深い関係がある読書に関する質問については、小・中学校ともに全国と比べ読書時間の割合が低く、読書を全くしない児童生徒もいます。

#### 【自分自身に関することについて】

「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合が高く、前向きな意識を持って生活していることがうかがえる反面、「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合は、小学校ではよくなっていますが、中学校では全国と比べやや低くなっています。物事を最後まであきらめず、やり遂げた達成感を数多く体験させることが大切と考えます。

#### 【地域・社会との関わりについて】

「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがある」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」などの地域社会に関する質問は、小・中学校とも全国に比べて低くなっています。

「新聞を読んでいますか」の質問については、全国と同じく低い傾向にあり、社会で何が起きているかの情報に関しては、新聞よりスマートフォン等でインターネットのニュースを見る場合が多くなっています。

#### 【その他】

授業で自分の考えを発表することや、児童生徒での話し合う活動が多く取り入れられており、授業の内容がよく分かると答えている児童生徒が増えています。授業において、確かな学力の育成に向けた指導方法の工夫・改善が進んでいます。

### 4 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策

- 新学習指導要領を見据えた教育課程の編成や分かりやすく楽しい授業、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を更に進めてまいります。
- 基礎学力の定着を図るとともに、「活用する力」の育成に向け、子どもたちの主体性や学習意欲を引き出す「学び合い」のある学習活動を効果的に取り入れ、様々な意見をしっかりと聞き、自分の考えを深めながらまとめて書く力や、根拠を持って分かりやすく説明する力を伸ばす言語活動の充実を一層進めてまいります。
- 図書を活用した授業を工夫し、本やインターネットを使った調べ学習や、探究的な学習の工夫に引き続き力を入れていきます。また、ICT活用による教育の質の維持・向上を図るとともに、更に教育機器などのICT環境を整備してまいります。
- 家庭学習と学力には、強い相関が見られます。予習や復習など自ら計画を立てて学習する、より質の高い家庭学習や自学自習の習慣化の確立に向けて取組を進めてまいります。家庭におかれましても、家庭学習の習慣化に向けてご協力をお願いいたします。

教育委員会では、子どもたちに、学校や家庭・地域の中で、多様な力を身につけ、大きく成長してほしいと願っています。本調査の結果だけで学力の全てを表すことはできませんが、これを一つの指標として、児童生徒一人一人の学びや生活を充実させ、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育むために、子どもたちの状況に応じて、各学校で有効に活用し、学力充実に向け一層努力してまいります。

保護者をはじめ、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。